

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減(A-B)
予 算 額	1,176,074	1,051,463	124,611

<input type="radio"/>	ブルーライン
<input type="radio"/>	グリーンライン
<input type="radio"/>	共通

(単位:千円)

【事業内容】	5年度予算額
1 ブルーライン車両 重要部・全般検査用材料調達事業	117,315

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため、定期交換が必要となる各装置の部品を購入します。

1 H30年度～R4年度の購入実績単価及び見積を用いて、各種部品の使用予定数量から予算金額を算出した。

2 R5年度予算事業対象期間: R6年度全期(令和6年4月～令和7年3月)

3 対象編成数: ①重要部保全検査 0編成 ②全般保全検査 9編成 ③新重要部検査 0編成



定期検査別材料部品費用

項目	検査別材料費(1編成当たり)		
	①重要部保全	②全般保全	③新重要部
台車部品	0		0
空制部品・電動空気圧縮機部品	0		0
制御・一般電気部品	0		0
戸閉装置部品・車体部品	0		0
税抜金額	0	11,850	0
税(10%)	0	1,185	0
合計金額	0	13,035	0

事業費用(税込)

項目	単価	数(編成)	金額
①重要部保全検査用材料	0	0	0
②全般保全検査用材料	13,035	9	117,315
③新重要部検査用材料	0	0	0
合計金額	—	—	117,315

年度別積算金額(税込)

項目	R3年度	R4年度	R5年度
①重要部保全検査用材料	0	0	0
②全般保全検査用材料	103,455	89,880	117,315
③新重要部検査用材料	0	0	0
合計金額	103,455	89,880	117,315



重要部・全般検査



重要部・全般検査

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第87条「施設及び車両の保全」
横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【事業内容】	5年度予算額
2 3000形車両 列車検査・月検査用材料調達事業	31,150

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する列車検査・月検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため、定期的に交換が必要となる消耗品や摩耗品を購入します。

項目	積算金額		備考
	金額		
制御・一電部品			速度発電機部品、遮断器部品等
車体・空調部品			ワイパー、継電器、フィルター類等
空制・台車部品			制輪子・塗油装置等
集電・回転部品			集電靴、軸ブラシ等
税抜金額	28,318		
税(10%)	2,832		
合計金額	31,150		



列車検査作業風景



月検査検査作業風景

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
3 3000形車両 車輪購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達した車輪を新品に交換します。

入場車両別 交換枚数

	形式	編成	交換車両数 (A)	1両あたりの数 (B)	交換数量 =(A)×(B)
R5年度	N形	33	2	8	16
		36	6		48
		37	0		0
R6年度	R形	39	6	48	
		40	0	0	
	N形	34	2	16	
		61	6	48	
	V形	59	2	16	
	S形	43	6	48	
		44	0	0	
合 計					240

<車輪新品径> 860mm
 3000A形出場限度
 M車 800mm
 T車 805mm
 3000N形出場限度
 M車 805mm
 T車 810mm
 3000R形出場限度
 M車 800mm
 T車 800mm
 3000S形出場限度
 M車 810mm
 T車 810mm
 3000V形出場限度
 M車 800mm
 T車 800mm

購入数 積算

交換数量①	安全在庫②※	在庫数③	購入数(①+②-③)
240	24	0	264

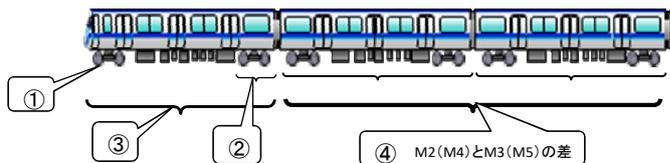
(※安全在庫とは、異常摩耗等の急な交換時に備えて確保しておく在庫のことです。)

積算金額

項目	数(枚)	単価	小計
車輪購入	264		
	税(10%)		
	合計金額		



台車・車輪 画像



車輪直径差限度

- ① 同一車軸: 1mm
- ② 同一台車: 6mm
- ③ 同一車両: 11mm
- ④ 同一ユニット: 20mm

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第87条「施設及び車両の保全」
 横浜市高速鉄道車両実施基準による、各部品の使用限度および交換周期による。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
4 3000A/N/R/V形車両 ディスク板購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達したブレーキ装置のディスク板を新品に交換します。
 摩耗したディスク板は入場毎に削正していますが、次回入場(約4年間)まで使用できるよう出場限度を定めており、限度を割ったディスク板を交換します。

必要年度	車両形式	編成	交換数(枚)
R6年度	N形	36	64
		37	22
	R形	39	64
		40	10
	N形	34	32
	V形	61	64
	S形	59	-
	R形	43	64
44		14	
合 計			334

<ディスク板新品径> 21~24mm

3000A形出場限度
 M車 17.3mm
 T車 13.1mm

3000N・R・V形出場限度
 M車 16.4mm
 T車 13.1mm

* S形は踏面ブレーキのため対象外

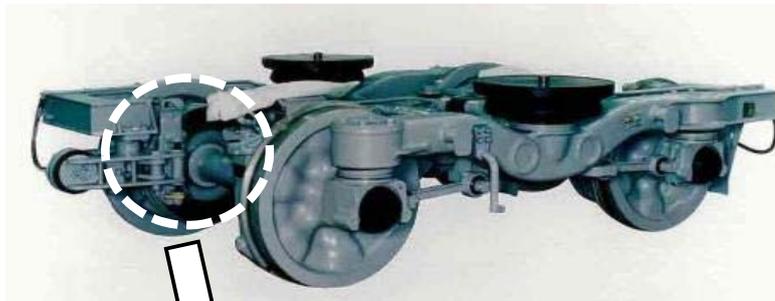
購入枚数 積算

交換数量①	安全在庫②※	在庫数③	購入数(①+②-③)
334	32	0	366

(※安全在庫とは、異常摩耗等の際、急な交換必要時に備えて確保しておく在庫のことです。)

積算金額

項目	数(枚)	単価	小計
ディスク板購入	366		
	税(10%)		
	合計金額		



台車 画像



台車 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第87条「施設及び車両の保全」
 横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

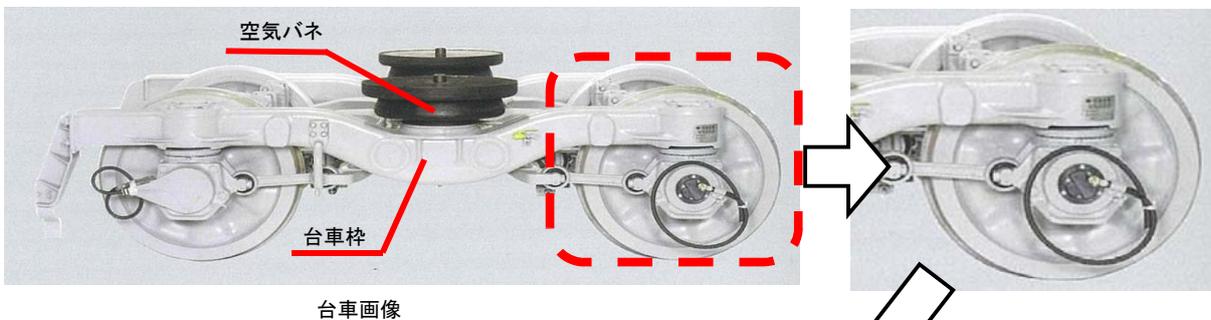
【 事 業 内 容 】	5年度予算額
5 3000NR形車両 軸箱支持装置特殊ゴム購入事業	

(1 事業目的・内容)

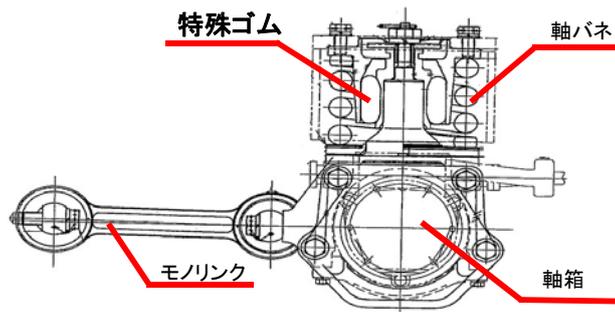
「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため軸箱支持装置で使用している特殊ゴムを購入するものです。
 軸箱支持装置は、輪軸(車輪と車軸を結合した部分)と台車枠を軸バネや特殊ゴムにて結合することにより、走行中の輪軸を台に車枠に対して安定させると同時に線路状況によって発生する振動を吸収する装置です。
 特殊ゴムの交換作業は台車を分解しないといけないため、全般・重要部保全検査工程に合わせて使用限度に達した特殊ゴムを交換して安全な運行と性能維持に努めます。

年度別積算金額

項 目		R5年度 4編成
特殊ゴム	数 (48個/編成)	192
	単価	
税抜金額		
税(10%)		
合計金額		



台車画像



特殊ゴム図

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費 節・細節：38 車両修繕費	所属：車両課(技術) 担当者：小森

(単位:千円)

【 事業 内 容 】	5年度予算額
6 3000R形車両 輪軸購入事業	46,816

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて、車両の安全運行確保と性能維持のため、車輪交換で使用する3000R形の輪軸を購入するものです。

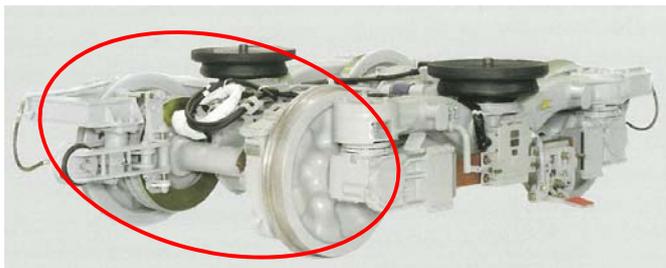
輪軸は、車軸、制動装置、駆動装置及び車輪で構成されており、台車内に取付けられた軸受けを介して車両を支えています。輪軸に取付けられた車輪は、走行の安全性を担保するために、定められた使用限度値を下回る前に交換しなければなりません。車輪の交換には、台車の分解、軸の整備、軸と車輪の分解、そしてそれらの復元など多数の工程を必要とし約1ヶ月の期間を要します。

現在予備輪軸を保有しておらず、予期せず車輪が使用限度値に達した場合、車輪交換を行うために1ヶ月程度車両を休止しなければなりません。

この予期せず生じうる車輪交換を回避するために5年周期で出場限度を決めて全般保全検査・重要部保全検査にて車輪を交換しておりますが新重要部検査を行うことで、5年周期で交換することが出来なくなります。

今回の購入により3両分の予備輪軸が揃い、車輪交換が生じても、車両の休止期間を最短にする事ができ、また、5年周期にとらわれず、使用限度ギリギリまで車輪が使用可能になることで車輪交換の頻度を減らすことができ支出の削減につながります。

積算金額			
項目	数量	単価	小計
M車輪軸(駆動装置付)	8	4,040	32,320
T車輪軸	4	2,560	10,240
	小計		42,560
	税(10%)		4,256
	合計金額		46,816



新重要部検査：車体と台車を分解しないため工程内(14日間)では交換できない。

- ◆車輪の使用限 780mm
R形の交換限 800mm 差:20mm
- ◆定期の車輪削正周期:14ヶ月
平均切削量:3mm(直径6mm)
- ◆使用限度まで、約3回削正が出来、約42ヶ月使用できる。
(臨時削正は除く)

<参考>
事業番号 3 3000形車両車輪購入事業
(車輪金額及び車輪直径差限度)



M車輪軸(駆動装置付き)



T車輪軸

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 年次表)

	4年度予算	5年度予算	6年度予定	7年度予定	8年度以降	総 額
事業費		46,816				46,816
債務負担設定	46,816					46,816

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 小森	

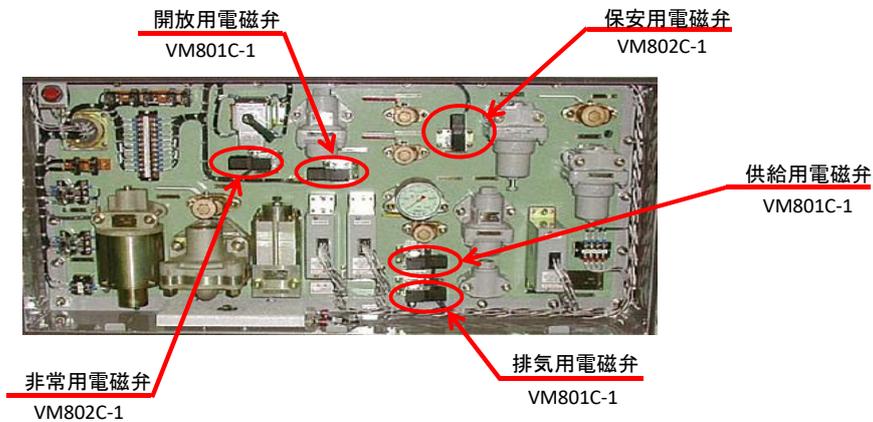
(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
7 3000S形車両 電磁弁購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のためブレーキ装置で使用している電磁弁を購入するものです。
 電磁弁は、電気部分と空気部分を備え、電磁コイルを励磁して圧縮空気回路を開閉するもので、「ON」形のVM801C-1と「OFF」形のVM802C-1の2種類あり、「ON」形のVM-801C-1は、供給試験・排気試験・開放用として、「OFF」形のVM802C-1は、非常・保安用として、空気ブレーキの制御を行う弁の一部です。
 3000S形に搭載の圧力検出器は製造から16年が経過しており、修理時の部品供給が不可能なことから、車両性能維持のために圧力検出器を購入します。

項 目		R5年度 3編成
VM801C-1 ON形	数 (18個/編成)	54
	単価	
	小計	
VM802C-1 OFF形	数 (12個/編成)	36
	単価	
	小計	
税抜金額		
税(10%)		
合計金額		



(2 前年度から変更・見直した点)
新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)
横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

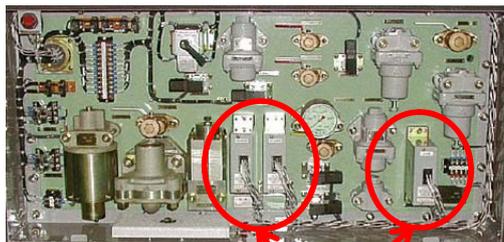
(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
8 3000S形車両 ブレーキ装置圧力検出器用圧力センサ購入事業	

(1 事業目的・内容)

本件は、ブルーライン3000S形車両に搭載されているブレーキ装置の電子部品でブレーキ力を判断するための圧力や空調装置でお客様の乗車状況を判断する乗車率に使用しており、その圧力を検出する装置です。
 ブレーキ装置用圧力検出器は空気圧を電子信号に変換し、ブレーキ装置、モニタ装置等に出力する空気圧力の基準になるもので、その数値に狂いが生じると制動力等に誤差が発生し車両性能に影響を及ぼします。
 3000S形に搭載の圧力検出器は製造から16年が経過しており、修理時の部品供給が不可能なことから、車両性能維持のために圧力検出器を購入します。

積算金額		R5年度
項 目		3編成
圧力センサ	数 (44個/編成)	132
	単価	
	小計	
税抜金額		
税(10%)		
合計金額		



圧力検出器



圧力センサ
(3個搭載)
AS1, 2, BC
AS3, 4, BC
CR
MR×2

(2 前年度から変更・見直した点)
新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)
横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
9 3000N・R・V形車両 ブレーキダイヤフラム購入事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達した基礎ブレーキ装置の部品を購入するものです。
 車両のブレーキ装置である空気ブレーキは、ブレーキダイヤフラムに空気を送り込み膨張させブレーキてこに伝えブレーキライニングをディスク板に押し当て、減速させ停止した状態を維持するために用いられています。
 ブレーキダイヤフラムは、ゴム製品のため交換周期は8年から10年(2定期)のため、経年劣化したブレーキダイヤフラムを交換し車両性能を維持します。

積算金額		R5年度
項 目		8編成
ブレーキダイヤフラム	数 (32個/編成)	256
	単価	
	小計	
税抜金額		
税(10%)		
合計金額		



ゴム

ブレーキダイヤフラム

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

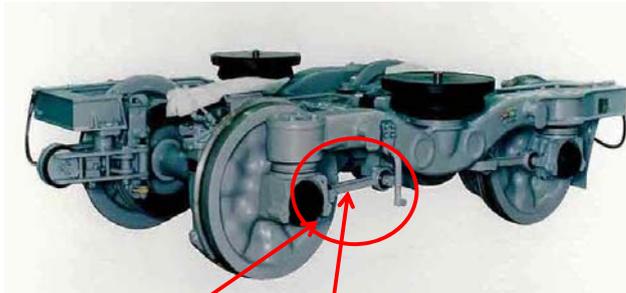
【 事業内容 】	5年度予算額
10 3000N・R・V形車両軸箱支持装置等部品購入事業	

(1 事業目的・内容)

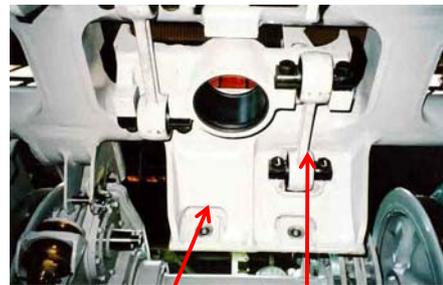
「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達した軸箱支持装置、牽引装置の部品を購入するものです。車両の車軸を支える軸箱支持装置はモノリンクと特殊ゴムを採用したモノリンク式です。リンクのゴムブッシュと軸バネ内の特殊ゴムにより適度な弾性と減衰作用を持たせています。牽引装置は、Zリンク式で台車枠と車体間の駆動力、制動力を車体に伝達するとともに台車のボギー中心となる働きをします。ゴム製品の交換周期は8年から10年(2定期)のため、経年劣化したゴムブッシュ等を交換し車両性能を維持します。

ゴムブッシュ交換工程表:3000N・R形車両

項目(単価:20千円)		R5年度
	対象編成数	8編成
モノリンク用ゴムブッシュ	(96個/編成)	
牽引リンク用ゴムブッシュ	(48個/編成)	
税抜金額		
税(10%)		
合計金額		



軸箱支持装置



牽引装置



モノリンク



モノリンク



牽引リンク

(2 前年度から変更・見直した点)
新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)
横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【事業内容】	5年度予算額
11 3000S形車両 蓄電池購入事業	

(1 事業目的・内容)

本件は、車両の安全運行確保と性能維持を目的として3000S形蓄電池を購入するものです。
 3000S形蓄電池は製造から17年が経過し、経年劣化に起因する電解液の急激な減少や発熱が発生しており、
 このまま使用を続けると発煙、発火の危険があります。
 これらを未然に防止するために、予防保全を目的とし蓄電池を購入します。

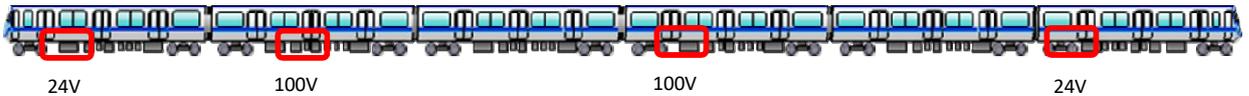
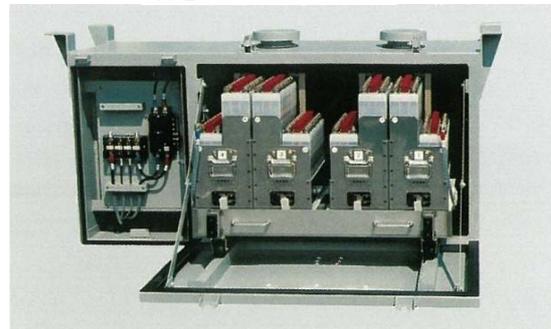
1編成当たり

項 目	単 価	価 格
蓄電池(100V) 数 (2個/編成)		
蓄電池(24V) 数 (2個/編成)		

積算金額

項 目	R5年度
蓄電池(100V) 1編成当たり	6
蓄電池(24V) 1編成当たり	
税抜金額	
税(10%)	
合計金額	

蓄電池(100V)



蓄電池(100V)
 多くのセルで電解液が最低線まで減少



蓄電池(100V)
 電解液がほぼ空で○部の電柱が変色している。



蓄電池(100V)

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第87条「施設及び車両の保全」

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費 節・細節：38 車両修繕費	所属：車両課(技術) 担当者：小森

(単位:千円)

【事業内容】	5年度予算額
12 ブルーライン車両 重要部・全般検査委託事業	480,084

(1 事業目的・内容)

鉄道車両の安全運行の確保と性能維持を目的として、「鉄道に関する技術上の基準を定める省令及び「施設及び車両の定期検査に関する告示(国土交通省告示)」に基づき、各鉄道事業者が鉄道車両に関する基準及び検査周期等を定めた実施基準(横浜市高速鉄道車両実施基準)を届け出ており、この実施基準に定めた検査周期により実施する重要部保全検査・全般保全検査・新重要部検査等の業務を委託して行います。新重要部検査の検査内容を精査するため、令和5年度は単年度で契約します。

- (1)重要部保全検査(検査周期5年・60万km以内)
 - ア 車体と台車を分離し、床下機器を取り外して、台車等の非破壊検査・ブレーキ弁類の単体検査。
 - イ 動力発生装置・走行装置・基礎ブレーキ装置・制御装置・補助電源装置・その他の重要な装置の分解整備を行うと共に、摩耗部品の交換等も行います。
 - ウ 保安装置のATC装置・列車無線装置は製造業者による点検整備を行います。
 - エ 整備終了後に構内及び本線試運転を実施し、総合評価を行います。
- (2)全般保全検査(検査周期10年以内)
 - ア 重要部保全検査の内容に加え、ブレーキ弁類の部品交換、ゴムホース類の交換、車輪軸の軸受け交換。
 - イ 主電動機の分解整備等、車両全般にわたり検査します。
- (3)新重要部検査(検査周期5年・60万km以内)⇒検査内容精査中
- (4)特別整備
 - ア 空調装置の性能維持と臭い対策のため定期洗浄年2回。(4月使用前洗浄:10月中間洗浄)
 - イ 冷房装置のロールフィルター交換及び空調ダクト清掃・吹出し口フィルターの交換。(全車)

項目	単価	単位	R5年度	
			数量	金額
(1)ブルーライン車両の重要部・全般保全検査(車体ほか)業務委託				
全般保全検査		編成	8	
特別整備等				
業務補助	— 式		1	
諸経費	— 式		1	
計				
税				
合計金額				
(2)ブルーライン車両の重要部・全般保全検査(ATC装置ほか)業務委託				
3000S形全般保全検査		編成	6	
3000N形全般保全検査		編成	2	
計				
税				
合計金額				
(3)ブルーライン車両の重要部・全般保全検査(列車無線)業務委託				
全般保全検査		編成	8	
計				
税				
合計金額				
合計金額				480,084

(2 前年度から変更・見直した点)

新重要部検査の検査内容を精査するため、令和5年度は単年度契約とします。

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第87条「施設及び車両の保全」
横浜市高速鉄道車両実施基準による各部品の使用限度および交換周期による。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

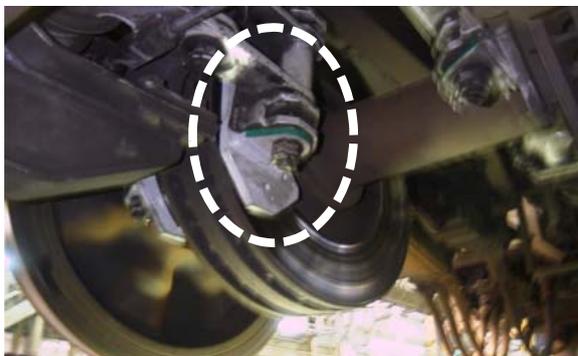
【 事 業 内 容 】	5年度予算額
13 3000形車両 ブレーキライニング張替修理事業	

(1 事業目的・内容)

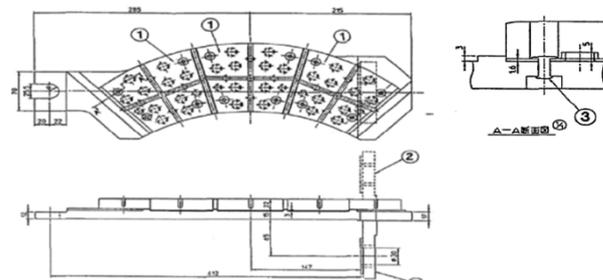
ディスクブレーキに使用しているブレーキライニング(パット)の使用限度に達したものを、新品に張り替えます。

積算金額			
項目	数(枚)	単価	小計
ブレーキライニング張替	2,100		
税(10%)			
合計金額			

ライニング使用基準	
新品ライニング 厚さ	22mm
使用限度ライニング 厚さ	8mm



ライニング 画像



項番	名称	材質	数量	左・中央・右
①	ライニング	耐摩レジン	3	左・中央・右
②	ライニング受	SS400	1	
③	溝平リベット	SV330	12	JIS B1213

ライニング 図面

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第87条「施設及び車両の保全」

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

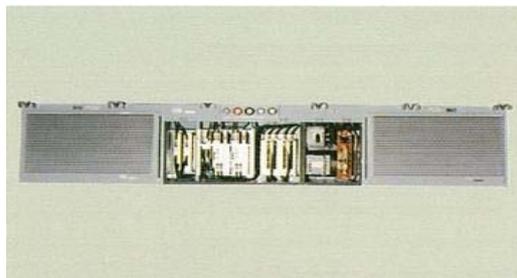
(単位:千円)

【 事業 内 容 】	5年度予算額
14 3000N/R/S形車両 各装置箱パッキン交換事業	

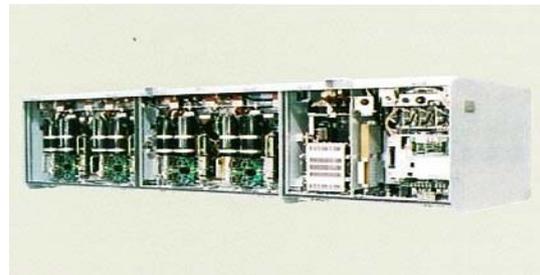
(1 事業目的・内容)

本件は、ブルーライン3000N/S形の制御装置箱、3000N形の補助電源装置箱、3000S形のブレーキ制御ユニット箱、3000N/R/S形のYTM(モニタ)・ATO装置箱、ATC装置箱 のパッキンを交換するものです。
経年劣化によるパッキンの劣化が著しく、本体とフタとの間に隙間ができ塵埃等(鉄粉含む)が混入しています。塵埃等が混入することにより電子機器に悪影響をおよぼし、故障へと波及する恐れがあるためパッキン交換を行い、車両の安全運行確保と性能維持を目的に本事業を行います。

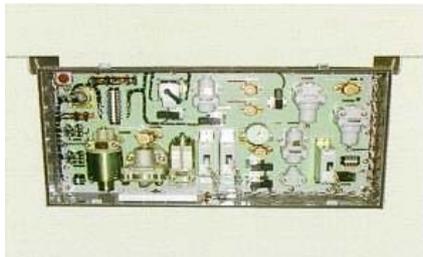
形式および装置名	数(編成)	単価	計
3000N形(制御装置、補助電源装置)	0		0
3000S形(補助電源装置・ブレーキ制御ユニット)	6		
3000N・R・S形(YTM(N形はモニタ)・ATO、ATC)	0		0
税抜金額			
税(10%)			
合計金額			



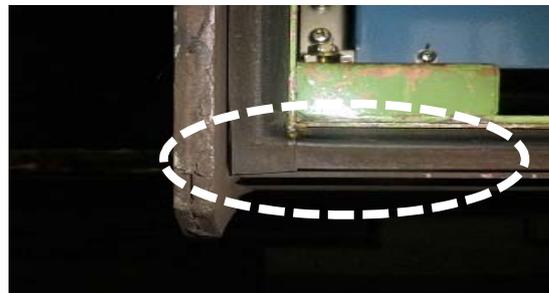
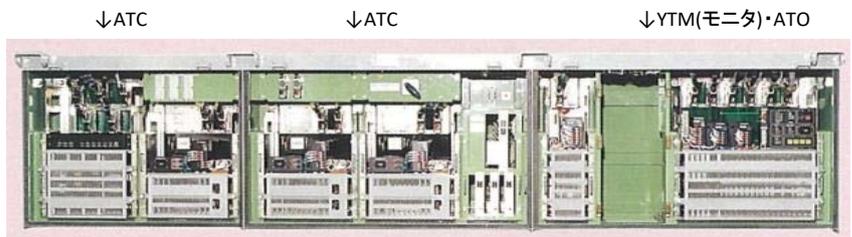
制御装置 画像



制御装置 画像



ブレーキ制御ユニット 画像



パッキンへたり 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第87条「施設及び車両の保全」

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
15 3000形車両 車輪交換事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達した車輪を新品に交換します。

入場車両別 車輪交換軸数

車両形式	編成	交換軸数
S形	54	8
	55	12
N形	33	4
S形	56	24
N形	32	24
S形	59	8
	58	16
	60	12
予 備		12
合 計		120

1軸あたり車輪交換金額

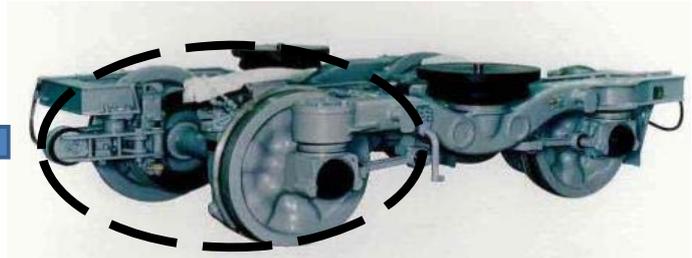
項目	単価
交換費	

積算金額

項 目	数(軸)	単価	計
車輪交換	120		
税(10%)			
合計金額			



輪軸 画像



台車画像



車輪交換作業 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第87条「施設及び車両の保全」
横浜市高速鉄道車両実施基準による、各部品の使用限度および交換周期による。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
16 3000形車両 ディスク板交換事業	

(1 事業目的・内容)

「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」に基づいて実施する重要部保全・全般保全検査において、車両の安全運行確保と性能維持のため使用限度に達したディスク板を新品に交換します。

入場車両別 ディスク板交換組数

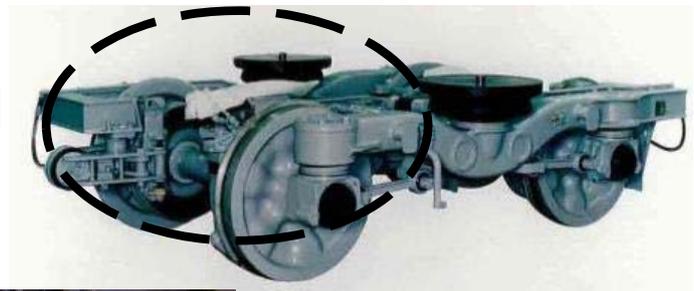
車両形式	編成	交換組数
S形	54	-
	55	-
N形	33	10
	56	-
N形	32	32
	59	-
S形	58	-
	60	-
	予 備	12
合 計		54

1組あたりディスク板交換金額

項目	単価
交換費	

積算金額

項 目	数(組)	単価	計
車輪交換	54		
税(10%)			
合計金額			



ディスク板 画像

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
17 3000形車両送風機清掃事業	

(1 事業目的・内容)

送風機は滑らかなソフトな風を送風しお客様に均等に涼しさをお届けすることができ、冷房時の空気循環と中間期の扇風機としてお客様に快適な空調サービスをお届けする装置です。
送風機は車内の空気と一緒に空気中のほこり等を吸い込んで送風しているため、送風機内にほこり等が多く付着します。この付着したほこり等が蓄積すると、塊となってお客さまに落下する事象が発生しています。これまでは、定期入場時(4年)ごとに取外し清掃を行っていましたが、中間期の2年で送風機を取外し清掃を行い、客室の環境維持に努めます。

積算金額

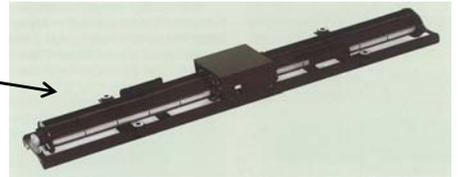
項目	数量	単位	単価	金額
N形送風機清掃	1	編成		
R/S形送風機清掃	6	編成		
4000形送風機清掃	2	編成		
税抜計				
税(10%)				
合計金額				



客室天井中央



天井内部に送風機を搭載



天井内部に送風機を搭載

(2 前年度から変更・見直した点)
4000形車両を追加

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費 節・細節：38 車両修繕費	所属：車両課(技術) 担当者：小森

(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
18 月検査業務委託	86,187

(1 事業目的・内容)

鉄道車両の安全運行の確保と性能維持を目的として、「鉄道に関する技術上の基準を定める省令及び「施設及び車両の定期検査に関する告示(国土交通省告示)」に基づき、各鉄道事業者が鉄道車両に関する基準及び検査周期等を定めた実施基準(横浜市高速鉄道車両実施基準)を届け出ており、この実施基準に定めた検査周期により実施する月検査等の業務を委託して行います。

- (1) 月検査(検査周期90日以内)
鉄道車両の安全運行の確保と性能維持を目的として、「横浜市高速鉄道車両整備実施基準」に定める検査周期に基づき、「高速鉄道車両整備要領」の月検査の項に定める整備、修繕等を行います。
- (2) 車輪削正
走行中にレールとの摩擦により車輪に生じた傷や摩耗について、車輪を削ることにより本来の形状に戻します。
- (3) 業務補助
検修設備の点検等の補助作業を行います。
- (4) 定期点検
月検査とは別途に定める点検項目について、項目ごとに定める検査周期で点検を行います。

年度別施工数および積算金額

項目	単価	単位	R4年度		R5年度		R6年度	
			数量	金額	数量	金額	数量	金額
直接人件費								
月検査	282	編成	144	40,608	144	40,608	144	40,608
車輪削正	17	軸	900	15,300	900	15,300	900	15,300
業務補助	140	月	12	1,680	12	1,680	12	1,680
引継ぎ教習	1,490	式					1	1,490
小計			-	57,588	-	57,588	-	59,078
定期点検								
ア 側開戸バランス機構点検給油	4	編成	15	60	15	60	15	60
イ 車輪径およびバックゲージ測定	4	編成	32	128	32	128	32	128
ウ 塗油装置点検清掃	4	編成	19	76	19	76	19	76
エ 連結球頭部点検給油	4	編成	25	100	25	100	25	100
オ MMストレナ点検清掃	4	編成	60	240	60	240	60	240
カ CP点検給油(油交換)及び油面計清掃	4	編成	36	144	36	144	36	144
キ CPストレナ点検清掃	4	編成	72	288	72	288	72	288
ク 軸ブラシ長さ測定およびカーボン溜め清掃	4	編成	67	268	67	268	67	268
ケ 暖房器使用前点検	46	編成	36	1,656	36	1,656	36	1,656
コ A形車両灯類定期交換(客室灯・乗務員室灯)	4	編成	5	20	3	12	1	4
サ ドアエンジン点検給油	4	編成	36	144	36	144	36	144
シ ブレーキディスク測定	4	編成	24	96	24	96	24	96
ス 軸端接地装置長さ測定	4	編成	28	112	28	112	28	112
小計			-	3,332	-	3,324	-	3,316
検査合計			-	60,920	-	60,912	-	62,394
諸経費			-	17,442	-	17,440	-	17,894
業務価格(税抜)			-	78,362	-	78,352	-	80,288
税(10%)			-	7,836	-	7,835	-	8,029
合計金額				86,198		86,187		88,317

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令 第90条「施設及び車両の定期検査」

(4 年次表)

	4年度予算	5年度予算	6年度予定	7年度予定	8年度以降	総 額
事業費	86,198	86,187	88,317			260,702
債務負担設定	260,702					260,702

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
19 台車装置修繕業務委託事業	

(1 事業目的・内容)

重要部保全検査及び全般保全検査時に、台車装置の検査・整備を実施しています。この検査・整備時に台車装置に不具合が見つかった場合は、台車装置の製造メーカーによる修繕が必要になります。本件はこの修繕を委託するものです。

数量

令和5年度検査対象車両の8編成

1編成あたりの金額内訳

項目	金額
台車装置修繕費(穴あけ補修なし)	
台車装置修繕費(穴あけ補修あり)	

積算金額

項目	数量	単位	単価	金額
台車装置修繕(なし)	6	編成		
台車装置修繕(あり)	2	編成		
				税抜計
				税(10%)
				合計金額



台車装置



製造メーカーによる修繕作業

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 所属: 車両課(技術) 担当者: 小森

(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
20 3000形車両 その他修理事業	

(1 事業目的・内容)

車両の不具合箇所の、修理対応をおこないます。

R5年度予算は、R1～R3年度の平均修理実績金額を計上しました。

過去3年間の予算額と決算額

項目	元年度	2年度	3年度	5年度
予算額				
実績修理費				-

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
21 3000S形車両座席シート張替事業	

(1 事業目的・内容)

座席シートは座面と背もたれで構成されており、バケットタイプを採用したもので、表面にモケットという布を張っています。この表面に張られた布は、長期間にわたり繰り返しお客さまが着座したことにより摩耗し、破けてしまうことが多発しています。また、営業線での交換も増加しており、お客様へ多大な迷惑をおかけしています。シートの布は複雑に縫い付けてあることから、破れた箇所を補修することは難しく、また破損箇所が多いことから、本事業により摩耗した座席シートの張り替えを行い、客室環境の維持を行います。

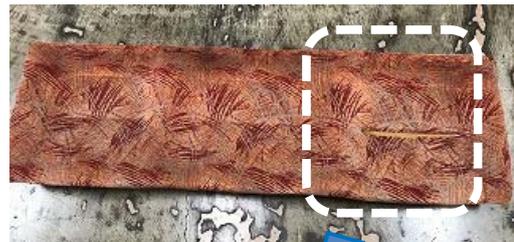
数量
3000S形車両 4編成

1編成当たり

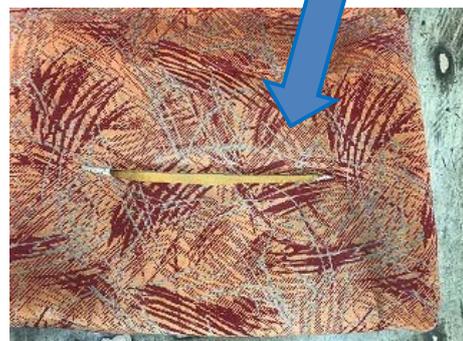
項目	数量	単位	単価	金額
座布団	86	個		
背ズリ(6人掛け)	40	個		
背ズリ(3人掛け)	6	個		
合計				

積算金額

項目	数量	単位	単価	金額
シート張替事業	4	編成		
			税抜計	
			税(10%)	
			合計金額	



切れた座席シート



(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
22 3000V形車両 PQモニタリング装置校正事業	

(1 事業目的・内容)

本件、PQモニタリング装置は3000V形車両に搭載されており、脱線に対する安全性の指針である脱線係数を測定する装置です。装置は主に両先頭車の中間車寄りに配置したPQモニタリング台車と制御装置から構成されています。台車および車体に搭載した各種センサにより、輪重、横圧、軸箱振動加速度、車体振動加速度などを測定し、制御装置にそれらのデータを記録して車両や軌道管理に役立てます。本装置は正確なデータを得るため各種センサの校正を1年毎に車輪削正後に実施しなければなりません。よって、装置の維持と管理のため各種センサの校正を実施し車両や軌道管理に役立て安全な運行に努めます。



PQモニタリング台車



PQモニタリング装置

項 目	積算金額		計
	数(式)	単価	
3000V形車両 PQモニタリング装置校正事業	1		
	税(10%)		
合計金額			

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森

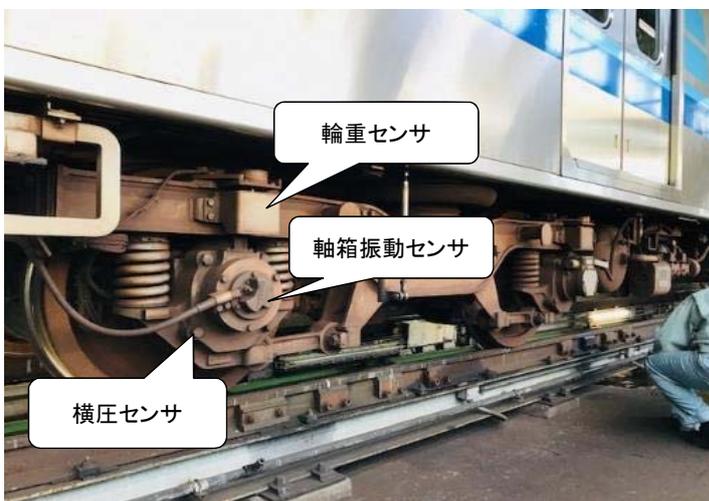
(単位:千円)

【 事業 内 容 】	5年度予算額
23 3000V形 センサ類・アンプBOX交換校正事業	0

(1 事業目的・内容)

本件、3000V形車両の軸箱振動センサ・横圧センサ・輪重センサ・アンプBOXを交換し、装置の校正を行う業務です。両先頭車に設置されているセンサとアンプBOXの交換周期を定期入場時に交換と校正を行い車両の走行における脱線係数の測定に欠かせない事業となります。車両の装置維持と管理を行い、正確な脱線係数データで軌道管理に役立て、車両の安全な運行に努めます。

積算金額			
項 目	数(式)	単価	計
3000V形センサ類・アンプBOX交換校正事業	1		
税(10%)			
合計金額			



(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(4 年次表)

	4年度予算	5年度予算	6年度予定	7年度予定	8年度以降	総 額
事業費						
債務負担設定						

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
24 3000S形車両 戸閉装置歯付ベルト交換修理事業	

(1 事業目的・内容)

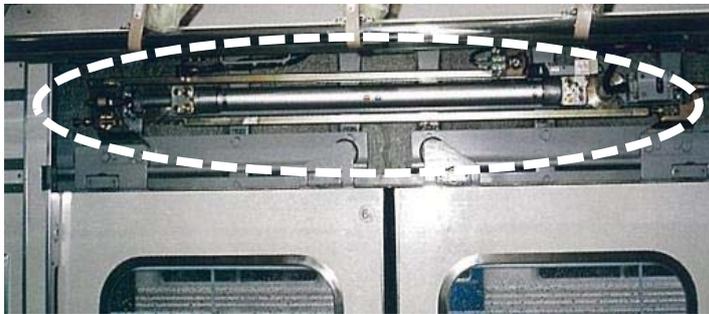
戸閉装置は、駅到着時にお客さまが乗降される際、車両ドアの開閉を行う装置です。同装置内に装備されている、ドア開閉時に重要な歯付ベルトが経年劣化により、破断及び捻じれが発生しています。この状態では、ドア開閉に支障をきたす恐れがあり、お客さまを安全に乗降させることが出来なくなるため、本事業で歯付ベルトの交換を行います。

1編成あたり施行金額

項目	単価
歯付ベルト交換	

積算金額

項目	編成数	単価	小計
歯付ベルト交換	6		
	税(10%)		
	合計金額		



(2 前年度から変更・見直した点)
新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田

(単位: 千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減(A-B)
予 算 額	582,994	407,115	175,879

	ブルーライン
○	グリーンライン
	共通

(単位: 千円)

【事業内容】	5年度予算額
1 重要部保全・全般保全検査用材料調達事業	87,855

(1 事業目的・内容)

グリーンライン10000形車両の重要部保全検査及び全般保全検査で行う整備に必要な材料を購入します。車両の安全運行を確保し各装置の性能を維持することを目的として、定期交換が必要となる部品を主に購入します。製作に半年以上の期間が必要な部品を調達するため、令和6年度に使用する材料を1年前倒して調達するものです。

(2 前年度から変更・見直した点)

- ・定期検査の入場計画に基づき対象の編成数が減少します。(4編成 → 3編成)
- ・過去購入実績及び見積を使用し、各部品の必要予定数量から予算金額を算出しました。
- ・パンタグラフ部品の交換を実施するため、パンタグラフ・車体部品において交換部品が増加しました。
- ・ブレーキダイヤフラム及び空制弁類の交換を実施するため、空制・電子機器部品において交換部品が増加しました。

【対象編成数】

重要部保全検査	全般保全検査	計
1編成	2編成	3編成

【内訳】

(単位: 千円)

項目	重要部保全検査[1編成あたり]	全般保全検査[1編成あたり]
台車部品		
パンタグラフ・車体部品		
空制・電子機器部品		
戸閉装置部品		
座金・Oリング等		
計	24,027	31,914

(単位: 千円)

予算額			
項目	単価	数量	金額
重要部保全検査用材料	24,027	1編成	24,027
全般保全検査用材料	31,914	2編成	63,828
計			87,855

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令
横浜市高速鉄道車両整備実施基準
高速鉄道車両整備要領10000形

(単位: 千円)

【事業内容】	5年度予算額
2 列車検査・月検査用材料調達事業	7,704

(1 事業目的・内容)

グリーンライン10000形車両の列車検査及び月検査で行う整備に必要な材料を購入します。車両の安全運行を確保し各装置の性能を維持することを目的として、摩耗限度となり交換が必要となる部品を主に購入します。

(2 前年度から変更・見直した点)

過去実績から必要数量を見積もり、実績単価及び見積により金額を算出しました。予備在庫の数量から購入数量を調整しました。

【内訳】

(単位: 千円)

項目	金額	備考
パンタグラフ部品		固形潤滑剤等
ブレーキ部品		ライニング
一般電気部品		スイッチ等
計	7,704	

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令
横浜市高速鉄道車両整備実施基準
高速鉄道車両整備要領10000形

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
3 空気ばね購入事業	

(1 事業目的・内容)

10000形車両用の空気ばねを購入します。

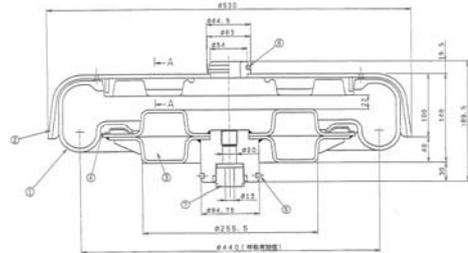
空気ばねはゴム部品のため、経年劣化により漏気を起こす可能性があり交換が必要です。

空気ばねは、外筒と内筒にゴム製のダイヤフラムがはさまれている構造となっています。

重要部・全般検査において、既にダイヤフラムの交換を順次進めています。外筒に接着されているゴム部も経年劣化していることが分かりました。そのため、ダイヤフラムを交換済みの編成については、外筒のみを交換し、その他の編成はダイヤフラムを含む組立品を交換します。

空気ばね購入数量(16個/編成) (単位:個)

年度	編成数	組立品	外筒
令和3年度	2	0	32
令和4年度	6	0	96
令和5年度	5	0	80
令和6年度	2	0	32
令和7年度	1	16	0
令和8年度	1	16	0



空気ばね

<内訳>

(単位:千円)

	数量(個)	単価	金額
外筒	80		
合計			

(2 前年度から変更・見直した点)

無し

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令

横浜市高速鉄道車両整備実施基準

高速鉄道車両整備要領10000形

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
4 空調装置購入事業	

(1 事業目的・内容)

空調装置はオーバーホールを順次行っていますが、新型コロナウイルス感染症対策で車内換気と同時に冷房運転を行っているため、故障の発生頻度が高くなっています。また、他事業者でも同様に空調装置の故障が増えているため、故障した装置のメーカー修理対応に以前よりも長く時間がかかっています。

修理対応に必要な予備品を確保するため、空調装置を1台購入します。



空調装置

(2 前年度から変更・見直した点)

新規事業

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令

横浜市高速鉄道車両整備実施基準

高速鉄道車両整備要領10000形

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 38 車両修繕費			担当者: 山田	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
5 車内揚フタ購入事業	

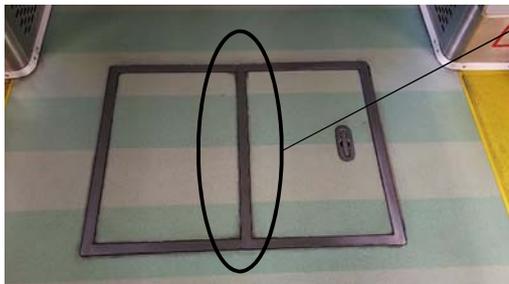
(1) 事業目的・内容

車内揚フタは、リアモータの吊り装置を点検・調整するために設けられた客室床面の開口部のフタです。経年劣化によりステンレス枠の腐食と床材の剥離が進んでいて、床面が浮いてしまい凹凸になっています。劣化しているものを優先して交換を行い補修します。

<内訳>

(単位:千円)

	数量(セット)	単価	金額
揚フタ	59		
合計			



車内揚フタ



腐食、剥離の状況

(2) 前年度から変更・見直した点

新規事業

(3) 根拠法令・規程、現場の意見等

鉄道に関する技術上の基準を定める省令
 横浜市高速鉄道車両整備実施基準
 高速鉄道車両整備要領10000形

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費 節・細節：38 車両修繕費	所属：車両課(技術) 担当者：山田

(単位:千円)

【事業内容】	5年度予算額
6 車両検査ほか委託事業	339,695

(1 事業目的・内容)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令(国土交通省)及び施設並びに車両の定期検査に関する告示(国土交通省告示)に従い、横浜市高速鉄道車両整備実施基準に定められた車両の定期検査として、列車検査、月検査及び重要部保全検査、全般保全検査の業務を委託して実施します。委託契約はR3年度から5年間の複数年契約として、R5年度は契約の3年目となります。

○定期検査の内容

列車検査	10日を超えない期間ごとに車両の主要部品の状態について、目視等により検査を行います。
月検査	90日を超えない期間ごとに車両の状態及び機能について検査を行います。
重要部保全検査	重要部検査の周期を4年から5年に延伸した検査です。5年または走行距離が60万キロメートルを超えない期間のいずれか短い期間ごとに、動力発生装置、走行装置、ブレーキ装置等、主要部分について分解・検査を行います。
全般検査	8年を超えない期間ごとに、車両を全般にわたって分解・検査を行います。
全般保全検査	全般検査の周期を延伸し、10年を超えない期間ごとに、車両を全般にわたって分解・検査を行います。

(2 前年度から変更・見直した点)

・R3年度に締結した契約に合わせて項目と金額を修正しました。

(単位:千円)

＜車両検査ほか委託事業内訳＞				R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度			
項目	単価(税込)	単位	数量	金額(税込)	数量	金額(税込)	数量	金額(税込)	数量	金額(税込)	数量	金額(税込)			
重要部 保全検査	車体ほか	重要部保全検査	35,254	編成	1	35,254	1	35,254	3	105,762	1	35,254	3	123,389	
		全般(保全)検査	38,429	編成	5	192,145	1	38,429	1	38,429	2	76,858	1	38,429	
		シート洗浄	282	編成	2	564	1	282	4	1,128	3	846	4	1,269	
		車輪交換	4,598	編成	1	4,598	1	4,598	0	0	0	0	4	20,691	
	全般検査	ATC装置ほか	重要部保全検査	3,165	編成	1	3,165	0	0	3	9,495	1	3,165	2	6,330
				3,297	編成	0	0	1	3,297	0	0	0	0	1	3,297
			全般(保全)検査	3,165	編成	4	12,660	1	3,165	1	3,165	2	6,330	1	3,165
	列車無線装置	重要部保全検査	935	編成	1	935	1	935	3	2,805	1	935	3	2,805	
		全般(保全)検査	935	編成	5	4,675	1	935	1	935	2	1,870	1	935	
	計			-	257,285	-	86,895	-	161,719	-	125,258	-	200,310		
月検査、 列車検査 ほか	責任者	119	回	242	28,798	243	28,917	243	28,917	243	28,917	242	28,798		
	月検査(4両)	590	回	66	38,940	66	38,940	51	30,090	35	20,650	28	16,520		
	月検査(6両)	885	回	0	0	2	1,770	17	15,045	33	29,205	40	35,400		
	列車検査(4両)	10	回	376	3,760	538	5,380	432	4,320	315	3,150	238	2,380		
	列車検査(6両)	14	回	0	0	38	532	144	2,016	261	3,654	338	4,732		
	車輪削正	20	軸	280	5,600	296	5,920	320	6,400	352	7,040	352	7,040		
	冷房点検(4両)	260	回	34	8,840	32	8,320	23	5,980	19	4,940	14	3,640		
	冷房点検(6両)	390	回	0	0	2	780	11	4,290	15	5,850	20	7,800		
	暖房点検(4両)	169	回	17	2,873	16	2,704	12	2,028	9	1,521	7	1,183		
	暖房点検(6両)	253	回	0	0	1	253	5	1,265	8	2,024	10	2,530		
	ライニング張替	9	枚	70	630	544	4,896	592	5,328	640	5,760	704	6,336		
	故障対応	176	日	365	64,240	365	64,240	366	64,416	365	64,240	365	64,240		
	業務補助(検修設備月例点検等)	-	式	1	3,363	1	7,865	1	7,881	1	7,869	1	7,853		
計			-	157,044	-	170,517	-	177,976	-	184,820	-	188,452			
合計					414,329	257,412	339,695	310,078	388,762						

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

- ・鉄道に関する技術上の基準を定める省令(国土交通省令)
- ・施設及び車両の定期検査に関する告示(国土交通省告示)
- ・横浜市高速鉄道車両整備実施基準

(4 年次表)

	4年度予算	5年度予算	6年度予定	7年度予定	8年度以降	総 額
事業費	257,412	339,695	310,078	388,762		1,295,947
債務負担設定						

令和5年度 修繕費 事業計画書

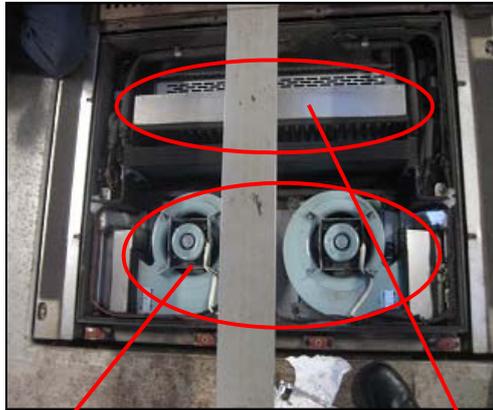
予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費 節・細節：38 車両修繕費	所属：車両課(技術) 担当者：山田

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
7 空調装置オーバーホール事業	

(1 事業目的・内容)

10000形車両空調装置のオーバーホールを実施します。
10000形車両の空調装置は、熱交換器、パッキン等部品の経年劣化により、空調効率が低下しています。また、熱交換器からの排水が他の機器室へ侵入しており、客室への水漏れや、同装置内コンプレッサーの動作不良を引き起こす恐れがあり、オーバーホールが必要です。



EF室

熱交換器

浸水状況

- ・重要部、全般検査入場車両を対象に交換を実施します。
- ・既契約の実績金額と予定編成数により予算金額を算出しました。

	対象編成数	対象編成
平成29年度実施予定	-	トライアル1台(第2編成)
平成30年度実施予定	2	第10, 11編成
令和元年度実施予定	5	第9, 12~15編成
令和2年度実施予定	4	第1~4編成
令和3年度実施予定	3	第5~7編成
令和4年度実施予定	0	-
令和5年度実施予定	2	第8, 16編成
令和6年度実施予定	1	第17編成
計	17	

<内訳>

債務負担設定	単価(千円)	R4年度		R5年度		R6年度	
		編成数	金額(千円)	編成数	金額(千円)	編成数	金額(千円)
空調装置オーバーホール		0	0	2		1	
空調装置脱着作業		0	0	4		3	
合計			0	6		4	

(2 前年度から変更・見直した点)

R5、R6年度の計画に二次車(第16、17編成)のOHを追加しました。
二次車の空調装置OHは、6両化する編成の空調装置と載せ替えて6両化工事の入場中に実施します。
二次車は載せ替えのため、OH1回につき脱着3回必要

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令
横浜市高速鉄道車両整備実施基準
高速鉄道車両整備要領10000形

(4 年次表)

	4年度予算	5年度予算	6年度予定	7年度予定	8年度以降	総 額
事業費						
債務負担設定	31,685					

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 38 車両修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田

(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
8 その他修理事業	38,264

(1 事業目的・内容)

車両故障等が発生した際に、不具合箇所の修理を実施するものです。
 安全な運行の提供の為、迅速な修理を実施する必要があります。
 緊急に対応が必要な修理のほか、全般・重要部検査の入場時に実施する修理作業を含みます。
 緊急修理の費用は、過去2年間の平均修理単価と今年度の修理件数予測を基に算出しました。
 定期入場時に実施する修理は令和4年度の契約実績から単価を採用しました。

過去2年間の緊急修理件数と平均単価

	緊急修理件数(件)	緊急修理平均単価(千円)
令和2年度	61	375
令和3年度	35	344
令和4年度 予測	35	

・ 緊急修理費用

・ 戸閉機械プーリ交換	■	×	4 編成	=	■	千円
・ 空気ばね外筒交換(臨時)	■	×	2 編成	=	■	千円
・ 空気ばね外筒交換(入場)	■	×	4 編成	=	■	千円
・ 台車溶接補修	■	×	4 編成	=	■	千円
・ 台車ゴムブッシュ交換整備	■	×	4 編成	=	■	千円
・ 列車無線アンテナカバーシール材補修	■	×	4 編成	=	■	千円
・ 床下機器ぎ装配線防水処理	■	×	4 編成	=	■	千円

計	38,264 千円
---	-----------

(2 前年度から変更・見直した点)

- ・緊急修理費用は過去2年間の平均修理単価から算出しました。
- ・定期検査に入場する編成数の増(2編成→4編成)にあわせて、入場時に実施する修理の編成数を変更しました。
- ・ゴム部が劣化した空気ばねの外筒交換を実施します。

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

鉄道に関する技術上の基準を定める省令
 横浜市高速鉄道車両整備実施基準
 高速鉄道車両整備要領10000形

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森

(単位: 千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減(A-B)
予 算 額	49,596	33,365	16,231

○	ブルーライン
	グリーンライン
	共通

(単位: 千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額																				
1 材料調達事業																					
(1 事業目的・内容)																					
<p>上永谷及び新羽車両基地に設置している設備等に用いる消耗品を購入します。</p> <p>平成31年度～令和3年度の契約実績の平均値を根拠として積算を行いました。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>年度</th> <th>契約実績(税込)</th> </tr> <tr> <td>平成31年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">平均値(小数点第一位切上げ)(税抜)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: black;"></td> </tr> </table> </td> <td style="width: 50%; border: none;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>年度</th> <th>予算要求(税込)</th> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">税率10%</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>年度</th> <th>契約実績(税込)</th> </tr> <tr> <td>平成31年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">平均値(小数点第一位切上げ)(税抜)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: black;"></td> </tr> </table>	年度	契約実績(税込)	平成31年度		令和2年度		令和3年度		平均値(小数点第一位切上げ)(税抜)				<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>年度</th> <th>予算要求(税込)</th> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">税率10%</td> </tr> </table>	年度	予算要求(税込)	令和5年度		税率10%	
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>年度</th> <th>契約実績(税込)</th> </tr> <tr> <td>平成31年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">平均値(小数点第一位切上げ)(税抜)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: black;"></td> </tr> </table>	年度	契約実績(税込)	平成31年度		令和2年度		令和3年度		平均値(小数点第一位切上げ)(税抜)				<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>年度</th> <th>予算要求(税込)</th> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">税率10%</td> </tr> </table>	年度	予算要求(税込)	令和5年度		税率10%			
年度	契約実績(税込)																				
平成31年度																					
令和2年度																					
令和3年度																					
平均値(小数点第一位切上げ)(税抜)																					
年度	予算要求(税込)																				
令和5年度																					
税率10%																					
(2 前年度から変更・見直した点)																					
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)																					

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費 節・細節：39 その他修繕費	所属：車両課(技術) 担当者：小森

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
2 車両検修設備保守委託	

(1 事業目的・内容)

上永谷車両基地、新羽車両基地の車両検修設備は、車両の各種検査及び車両脱線時の復旧等に使用しています。これらの装置の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、計画的に保守を行います。



輪重測定装置



輪心旋盤



台車洗浄装置



主電動機気吹装置

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所	R4年度点検	R5年度点検
車両輪重測定装置	-	1台	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	○	○
自動車両洗浄装置	-	各1台	車両洗浄等	2年 (前回R1)	上永谷検車区及び 新羽検車区	-	○
台車洗浄装置	-	1台	重要部・全般保全検査等	2年 (前回R1)	上永谷修繕工場	-	○
台車塗装装置(脱臭装置、塗装ロボット含)	-	1台	全般保全検査等	3年 (前回R1)	上永谷修繕工場	○	
輪軸洗浄装置(洗浄ロボット含む)	-	1台	重要部・全般保全検査等	3年 (前回H30)	上永谷修繕工場	-	
台車トラバサ(台車抜取装置)	-	1台	重要部・全般保全検査等	3年 (前回R1)	上永谷修繕工場	○	
乾式移動集塵機	-	0	月検査・列車検査・冷房点検	3年 (前回H30)	上永谷検車区	-	
主電動機気吹装置(排気処理、気吹ロボット含)	-	1台	重要部・全般保全検査等	3年 (前回R2)	上永谷修繕工場	-	○
磁粉探傷装置	-	1式	重要部・全般保全検査等	4年 (前回R2)	上永谷修繕工場	-	
ルーカス脱線復旧装置	-	2台	脱線復旧等	3年 (前回R2)	上永谷検車区及び 新羽検車区	-	○
台車分解組立装置	-	2台	重要部・全般保全検査等	3年 (前回R1)	上永谷修繕工場	○	
台車輪軸転車台	-	8基	重要部・全般保全検査等	6年 (前回H29)	上永谷修繕工場	○	
輪心旋盤	-	1台	重要部・全般保全検査等	3年 (前回R2)	上永谷修繕工場	-	○
超音波探傷装置	-	1台	重要部・全般保全検査等	6年 (前回H29)	上永谷修繕工場	-	○

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【事業内容】	5年度予算額
3 車両移動機等保守委託	

(1 事業目的・内容)

上永谷車両基地及び新羽車両基地に設置されている車両移動機、高所作業車は車輪の削正作業で車両を移動する際や車両点検時の車両屋根を検査する際に使用しています。
これらの車両移動機の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、法令で定められた定期自主検査を行います。



車両移動機 (AN77RR-2ST)



車両移動機 (30D-BWAT)

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所	R4年度点検	R5年度点検
車両移動機	AN77RR-2ST	1台	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	○	○
	30D-BWAT	1台	車輪削正時の車両移動等	毎年	上永谷検車区	○	○
	21HM	1台	車輪削正時の車両移動等	毎年	新羽車両基地	○	○
高所作業車	MAX-LIFT-700	1台	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	-	○
テーブルリフター	ANT-LT-700	1台	重要部・全般保全検査等	3年	上永谷修繕工場	-	-

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

労働安全衛生規則第229条(定期自主検査)

事業者は、1年以内毎に1回、定期的に自主検査を行わなければならない。

労働安全衛生規則第194条の23(定期自主検査)

事業者は、1年以内毎に1回、定期的に自主検査を行わなければならない。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費 節・細節：39 その他修繕費	所属：車両課(技術) 担当者：小森

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
4 クレーン定期自主検査事業	

(1 事業目的・内容)

車両基地に設備されているクレーンは車両検査にて車両や車両部品等の重量があるものを運搬するために使用しています。各クレーンの性能、安全性及び寿命を維持する目的で、法令で定められた定期自主検査を行います。



(10tホイスト付天井クレーン)

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	重量	数量	使用用途	年検周期	設置場所	月例点検	年次点検	点検周期
天井クレーン	15t/3t	2基	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	11回	1回	毎年
	7.5t	1基	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	11回	1回	毎年
	1t	1基	各装置等の運搬等	毎年	上永谷修繕工場	-	1回	毎年
ホイスト付天井クレーン	10t	1基	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	11回	1回	毎年
	2.5t	2基	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	-	1回	毎年
スタッカークレーン	4.2t	1基	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場	11回	1回	毎年
	0.8t	2基	各装置等の運搬等	毎年	上永谷修繕工場	11回	1回	毎年
モノレールホイストクレーン	0.25t	2基	各装置等の運搬等	毎年	上永谷検車区	-	1回	毎年
橋形クレーン	8.1t	1基	レール等重量物運搬等	毎年	新羽施設区	11回	1回	毎年
	4.8t	1基	レール等重量物運搬等	毎年	上永谷施設区	11回	1回	毎年

性能検査(揚力3t以上が対象)

名称	重量	数量	検査実施周期	実施年
天井クレーン	15t/3t	2基	2年	R4年実施
	7.5t	1基		R4年実施
ホイスト付天井クレーン	10t	1基		R4年実施
スタッカークレーン	4.2t	1基		R5年実施
橋形クレーン	4.8t	1基		R5年実施
	8.1t	1基		R5年実施

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

労働安全衛生法第45号の1、同法施行令第15条、クレーン等安全規則第34条(定期自主検査)

1年以内毎に1回、また、1か月以内毎に1回、検査を行わなければならない。

労働安全衛生法 第45条の2

特定自主検査を行う際は、資格を有するもの又は登録を受けたものに実施させなければならない。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
5 フォークリフト等特定自主検査事業	

(1 事業目的・内容)

上永谷及び新羽車両基地で使用しているフォークリフト及び作業台付蓄電池車は、重量がある車両部品の運搬等に使用しています。各フォークリフト及び作業台付蓄電池車の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、法令で定められた定期自主検査を行います。



バッテリーフォークリフト

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	重量	数量	使用用途	点検周期	設置場所
バッテリーフォークリフト	2.5t	1台	物品搬入・移動等	毎年	上永谷修繕工場
	1.65t	1台	物品搬入・移動等	毎年	上永谷検車区
	1.6t	1台	物品搬入・移動等	毎年	上永谷修繕工場
	1.5t	1台	物品搬入・移動等	毎年	上永谷修繕工場
エンジンフォークリフト	1.0t	1台	物品搬入・移動等	毎年	新羽検車区
	3.0t	1台	物品搬入・移動等	毎年	上永谷修繕工場
作業台付蓄電池車	-	4台	重要部・全般保全検査等	毎年	上永谷修繕工場

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

労働安全衛生規則第151条の24(フォークリフトの特定自主検査)及び194条の26(作業台付蓄電池車の特定自主検査)

1年以内毎に1回、検査を行わなければならない。

労働安全衛生法第45条の2

自主検査を行う際は、資格を有するもの又は登録を受けたものを実施させなければならない。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【事業内容】	5年度予算額				
6 架空集電装置定期検査事業					
(1 事業目的・内容)					
<p>上永谷検車区(2基)、修繕工場(1基)及び新羽検車区(2基)の架空集電装置は、第三軌条の設備が無い検修庫内での車両整備で車両用動力電源として使用しています。 各架空集電装置の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、省令で定められた定期検査を行います。</p>					
					
(架空集電装置)					
点検周期表に基づき点検を実施します。					
名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所
架空集電装置	-	2基	車両電源供給	毎年	上永谷検車区
	-	1基	車両電源供給	毎年	上永谷修繕工場
	-	2基	車両電源供給	毎年	新羽検車区
(2 前年度から変更・見直した点)					
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)					
<p>鉄道に関する技術上の基準を定める省令第90条の2 施設及び車両の定期検査に関する告示第3条(電力設備の定期検査) 1年以内毎に1回、定期に検査を行わなければならない。</p>					

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
7 一般工作機械保守委託事業	

(1 事業目的・内容)

上永谷修繕工場に設備されている一般工作機械は、車両の定期検査及び修繕に使用している機器になります。これらの機器は車両部品の脱着や機械的強度特性の評価判定に使用しています。各工作機械の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、省令で定められた定期検査を行います。



(スケヤーシャー)



油圧プレス



バネ試験器

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所	R4年度点検	R5年度点検
スケヤーシャー	N-1504	1台	鋼板・アルミ・ステンレス等の板材の切断	毎年	上永谷修繕工場	○	○
油圧プレス	BC-25	1台	材料加工(曲げ、圧縮、圧脱、圧入等)	毎年	上永谷修繕工場	○	○
バネ試験器	RUE-200	1台	地下鉄車両の鋼材等の機械的強度	毎年	上永谷修繕工場	○	○
スクリュー コンプレッサー	KST22AD-S	2台	空圧機械や工具用の圧縮空気を作り出す機械の定期自主検査		上永谷修繕工場	-	-
	SG610AD-5HM	1台			上永谷修繕工場	-	-
	HM-22ADIH型	2台			上永谷検車区	-	○
	HM-22ADIH型	2台		4年 (前回R元)	新羽検車区	-	○

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

スケヤーシャー

労働安全衛生法第45条の1(定期自主検査)

事業者は、定期に自主検査を行ない、その結果を記録しておかなければならない。

労働安全衛生法施行令第15条の2(定期に自主検査を行うべき機械等)

労働安全衛生規則第135条(定期自主検査)

事業者は、1年以内毎に1回、定期に自主検査を行なわなければならない。

バネ試験機

JIS-B-7721引張試験器第11項

事業者は、1年以内毎に1回、検査・校正を行なわなければならない。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
8 3000形列車無線携帯・簡易試験器保守委託事業	

(1 事業目的・内容)

上永谷車両基地及び新羽車両基地にある列車無線装置試験機は、列車検査、月検査及び重要部・全般保全検査に使用しています。
この装置の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、毎年メンテナンスを行います。



列車無線装置試験器

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所
列車無線携帯試験器	A011278-1	1台	重要部・全般保全検査、故障分析等	毎年	上永谷検車区
	A011278-2	1台			新羽検車区
列車無線簡易試験器	A011278-1	1台	重要部・全般保全検査、故障分析等	毎年	上永谷検車区
	A011278-2	1台			新羽検車区

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
-------------	--------

9 新羽車両基地車輪転削盤保守委託

(1 事業目的・内容)

新羽検車区に設備されている車輪転削盤は、車両の走行により摩耗する車輪の形状を正規の形状に削正するもので、定期的に削正することにより車輪形状の管理をしています。
本装置は、平成28年に施工完了した装置になります。
車輪形状の管理に支障が出ないよう、装置の性能、安全性及び寿命を維持する目的で、年次点検を行います。



新羽車両基地 車輪転削盤

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所	R4年度点検	R5年度点検
車輪転削盤	LUT-106	1台	車輪形状の管理	毎年	新羽検車区	○	○

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
-------------	--------

10 ブルーライン運用管理システムセキュリティー対策業務委託

(1 事業目的・内容)

運用管理システムは、車両の毎日の動き(運用)や検査、清掃等の作業計画を立てたり、基地のPRC(基地信号システム)に送信し、基地内の配車計画にも使用していますが、作業効率の悪い従来品を平成28年度に新規設計し、今年度にかけて更新しております。
更新後の運用管理システムは従来品と異なり、交通局内ネットワークに組み込まれたサーバクライアントとして設計したため、ウイルス対策ソフトをインストールしております。
ウイルスソフトは、日々発生する新しいウイルスを迅速に発見するために、パターンファイル(ウイルスの特徴を記したデータベースのようなもの)を保有しています。パターンファイルは通常、外部ネットワーク経由で随時更新されるように設定しますが、本システムが接続されているネットワークは、セキュリティー対策のためインターネットに接続不可能な閉じたネットワークとなっております。そのためパターンファイルを更新するには、本システムのサーバに手動でインストールを行う必要があります。

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額																				
11 その他の修理事業																					
<p>(1 事業目的・内容)</p> <p>上永谷車両基地及び新羽車両基地に設置している設備の不具合箇所の修理対応を行います。 車両基地の設備等は、列車検査、月検査及び重要部・全般保全検査で使用しています。機器類が故障し機能を停止した場合、各検査の工程に支障をきたす恐れがあることから迅速な修理対応が必要となります。</p> <p>平成31年度～令和3年度の契約実績の平均値を根拠として積算を行いました。 不具合が発生している機器・装置の修理費を計上。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">年 度</td> <td style="text-align: center;">契約実績(税込)</td> <td style="width: 20px;"></td> <td style="text-align: center;">年 度</td> <td style="text-align: center;">予算要求(税込)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="background-color: black;"></td> <td></td> <td style="text-align: center;">令和5年度</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">令和2年度</td> <td style="background-color: black;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">令和3年度</td> <td style="background-color: black;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">平均値(小数点第一位切上げ)(税込)</p> <div style="text-align: center; background-color: black; width: 100px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div>		年 度	契約実績(税込)		年 度	予算要求(税込)	令和元年度			令和5年度		令和2年度					令和3年度				
年 度	契約実績(税込)		年 度	予算要求(税込)																	
令和元年度			令和5年度																		
令和2年度																					
令和3年度																					
<p>(2 前年度から変更・見直した点)</p> <p>(3 根拠法令・規程、現場の意見等)</p>																					

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目			担 当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術)	
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 小森	

(単位:千円)

【 事業内容 】	5年度予算額
12 ATC・ATO試験装置保守委託事業	

(1 事業目的・内容)

3000形車両用ATC・ATO試験器エージング架の6年に1回の定期点検を委託して実施するものです。
 当該試験装置は、3000形車両に搭載しているATC・ATO装置の法定定期検査や故障分析に使用しており、その十分な性能は適正な車両保守及び車両故障対応に必要です。この装置は定期的に保守点検を行わないと、試験装置としての精度を保つことが出来ません。
 本件はこの試験装置の性能を維持するために行うものです。



ATC・ATO試験器エージング架

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所	R3年度点検	R4年度点検	R5年度点検	R6年度点検
ATC	C818681	1台	試験器の性能維持	6年	修繕工場	○	-	-	-
エージング架	PB0002	1台	試験器の性能維持	6年	新羽検車区	-	○	-	-
ATC試験器	C822477	1台	試験器の性能維持	6年	修繕工場	-	-	-	-
	C822476	1台	試験器の性能維持	6年	修繕工場	○	-	-	-
	C980742	1台	試験器の性能維持	6年	新羽検車区	-	○	-	-
ATC/ATO 試験器	PB0763	1台	試験器の性能維持	6年	新羽検車区	-	-	○	-
		1台	試験器の性能維持	6年	上永谷検車区	-	-	-	○
ATO エージング架	PB0297	1台	試験器の性能維持	6年	修繕工場	-	-	-	-
ATO試験装置	PB0296	1台	試験器の性能維持	6年	修繕工場	-	-	-	-
ATO送受信器 試験器		1台	試験器の性能維持	6年	新羽検車区	-	-	-	○
	RT1816A	1台	試験器の性能維持	6年	上永谷検車区	-	-	-	-
電磁弁試験器	MV-1	1台	試験器の性能維持	6年	修繕工場	-	-	-	○

(2 前年度から変更・見直した点)

ATO試験装置及びATO送受信器試験機を故障対応から定期検査へ変更(両検車区に設置されたため)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 小森
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位: 千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
13 3000形ブレーキ受量器試験装置保守委託事業	

(1 事業目的・内容)

3000形ブレーキ受量器試験装置の6年に1回の定期点検を委託して実施するものです。
当該試験装置は、3000形車両に搭載しているブレーキ受量器の法定定期検査や故障分析に使用しており、その十分な性能は適正な車両保守及び車両故障対応に必要です。この装置は定期的に保守点検を行わないと、試験装置としての精度を保つことが出来ません。本件はこの試験装置の性能を維持するために行うものです。



3000形ブレーキ受量器試験装

点検周期表に基づき点検を実施します。

名称	型式等	数量	使用用途	点検周期	設置場所
3000形ブレーキ受量器試験装置	-	各1式	重要部・全般保全検査、故障分析等	6年 (前回H29)	上永谷検車区及び 上永谷修繕工場

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

(単位: 千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
14 U字型台秤ほか保守委託	

(1 事業目的・内容)

U字型台秤は、地下鉄車両整備等で不要となった車輪、ディスク板及び機器類の売り払い時の数量(質量)算出に用いています。



U字型台秤



デジタル吊秤

(2 前年度から変更・見直した点)

(3 根拠法令・規程、現場の意見等)

【計量法】

第十九条(定期検査)

特定計量器(第十六条第一項又は第七十二条第二項の政令で定めるものを除く。)のうち、その構造、使用条件、使用状況等からみて、その性能及び器差に係る検査を定期的に行うことが適当であると認められるものであって政令で定めるものを取引又は証明における法定計量単位による計量に使用する者は、その特定計量器について、その事業所(事業所がない者にあつては住所。以下この節において同じ。)の所在地を管轄する都道府県知事(その所在地が特定市町村の区域にある場合にあっては、特定市町村の長)が行う定期検査を受けなければならない。

【計量法施行令】

第十一条(定期検査の実施時期)

法第二十一条第一項の政令で定める期間は、非自動はかり、分銅及びおもりにあつては二年とし、皮革面積計にあつては一年とする。

令和5年度 修繕費 事業計画書

予算科目	担当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減(A-B)
予算額	22,369	28,576	△ 6,207

	ブルーライン
○	グリーンライン
	共通

(単位:千円)

【事業内容】	5年度予算額										
1 材料調達事業	803										
(1 事業目的・内容) 川和車両基地に設置している、車体洗浄装置や車両管理システム等の車両検修設備に使用する交換部品及び消耗品を購入します。											
(2 前年度から変更・見直した点) 過去3年間(令和元年度から令和3年度)の契約実績金額の平均値を計上。											
(単位:千円)											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績金額</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>221</td> <td rowspan="3">803</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1333</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>853</td> </tr> </tbody> </table>		年度	実績金額	平均	令和元年度	221	803	令和2年度	1333	令和3年度	853
年度	実績金額	平均									
令和元年度	221	803									
令和2年度	1333										
令和3年度	853										
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)											

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額					
2 車両検修設備保守委託事業						
(1 事業目的・内容)						
川和車両基地に設置している車両検修設備は車両の各種検査に使用しています。 各種検修設備の性能、安全性及び寿命を維持するため、設備毎に点検周期を定め、計画的に点検及び保守作業を実施しています。						
(2 前年度から変更・見直した点)						
各種設備の点検周期に基づき下記表のとおり点検を実施します。 各種装置の単価は実績金額により積算しました。						
設備名称	点検周期	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
LIMギャップ測定装置	毎年	○	○	○	○	○
車両輪重測定装置	毎年	○	○	○	○	○
車体自動洗浄装置	2年	○	-	○	-	○
気吹き集じん装置	3年	-	-	○	-	-
台車抜取装置	3年	○	-	-	○	-
脱線復旧装置	3年	○	-	-	○	-
車輪転削盤	2年	-	○	-	○	-
<内訳>		(単位:千円)				
対象設備	金額					
LIMギャップ測定装置						
車両輪重測定装置						
車体自動洗浄装置						
気吹き集じん装置						
計						
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)						
横浜市高速鉄道車両整備実施基準第14条(静止輪重の管理)						
輪重比管理を適正に行うため、輪重測定装置の校正を定期的(毎年)行う必要がある。						

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田
項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額
3 車両移動機保守委託事業	
<p>(1 事業目的・内容)</p> <p>川和車両基地に設置している車両移動機は車輪の転削作業等で車両を移動する際に使用しております。車両移動機の性能、安全性及び寿命を維持するため、法令で定められた定期自主検査を行います。 ※検査周期: 毎年</p> <p>(2 前年度から変更・見直した点)</p> <p>無し</p> <p>(3 根拠法令・規程、現場の意見等)</p> <p>労働安全衛生規則第二百二十九条(定期自主検査) 事業者は、電気機関車等については、一年以内ごとに一回、定期に、自主検査を行わなければならない。 30DR-2ST: 車両移動機</p>	



(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額															
4 クレーン定期自主検査事業																
<p>(1 事業目的・内容)</p> <p>川和車両基地に設置しているクレーンは、車両検査時に車体や車両部品等を運搬するために使用しています。各種クレーンの性能、安全性及び寿命を維持するため、法令で定められた定期自主検査を行います。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>対象設備</th> <th>型式等</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天井クレーン</td> <td>12t</td> <td>2基</td> </tr> <tr> <td>天井クレーン</td> <td>1t</td> <td>1基</td> </tr> <tr> <td>橋形クレーン</td> <td>2.8t</td> <td>1基</td> </tr> <tr> <td>スタッカークレーン</td> <td>2.6t</td> <td>1基</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2 前年度から変更・見直した点)</p> <p>無し</p> <p>(3 根拠法令・規程、現場の意見等)</p> <p>労働安全衛生法第45号の1、同法施行令第15条、クレーン等安全規則第34条(定期自主検査) 1年以内に1回、また、1ヶ月以内ごとに1回、検査を行わなければならない。</p>		対象設備	型式等	数量	天井クレーン	12t	2基	天井クレーン	1t	1基	橋形クレーン	2.8t	1基	スタッカークレーン	2.6t	1基
対象設備	型式等	数量														
天井クレーン	12t	2基														
天井クレーン	1t	1基														
橋形クレーン	2.8t	1基														
スタッカークレーン	2.6t	1基														

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額															
5 フォークリフト等特定自主検査事業																
(1 事業目的・内容) 川和車両基地で使用しているフォークリフト及び高所作業車等は、重量が大きな部品の運搬や、車両の車両屋根上を検査する際に使用します。 各フォークリフト及び高所作業車の性能、安全性及び寿命を維持するため、法令で定められた特定自主検査を行います。 ※検査周期: 毎年																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象設備</th> <th>型式等</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バッテリーフォークリフト</td> <td>1.5t</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>バッテリーフォークリフト</td> <td>3.0t</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>高所作業車</td> <td>0.41t</td> <td>2台</td> </tr> <tr> <td>バッテリー式運搬車</td> <td>1.0t</td> <td>1台</td> </tr> </tbody> </table>		対象設備	型式等	数量	バッテリーフォークリフト	1.5t	1台	バッテリーフォークリフト	3.0t	1台	高所作業車	0.41t	2台	バッテリー式運搬車	1.0t	1台
対象設備	型式等	数量														
バッテリーフォークリフト	1.5t	1台														
バッテリーフォークリフト	3.0t	1台														
高所作業車	0.41t	2台														
バッテリー式運搬車	1.0t	1台														
(2 前年度から変更・見直した点)																
(3 根拠法令・規程、現場の意見等) 労働安全衛生規則第151条の24(フォークリフトの特定自主検査)及び194条の26(作業台付蓄電池車の特定自主検査) 1年以内ごとに1回、検査を行わなければならない。																

(単位:千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額										
6 その他修理事業											
(1 事業目的・内容) 川和車両基地に設置している車両検修設備及びコンプレッサー等、車両整備に使用する機器で発生した不具合箇所の修理を行います。 車両検修設備等は各種検査(全般、重要部、列車、月)で使用しております。 機器類が故障し、その機能が損なわれた場合、各検査工程に支障をきたす恐れがあるため、迅速な修理を実施する必要があります。 使用開始から10年以上が経過している軸受着脱装置の修理を実施します。											
(2 前年度から変更・見直した点) ・過去3年間の契約実績金額平均値を予算額としました。											
(単位:千円)											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>契約実績</th> <th>実績平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>4,524</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">4,116</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,643</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>6,182</td> </tr> </tbody> </table>		年度	契約実績	実績平均	令和元年度	4,524	4,116	令和2年度	1,643	令和3年度	6,182
年度	契約実績	実績平均									
令和元年度	4,524	4,116									
令和2年度	1,643										
令和3年度	6,182										
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)											

令和5年度 修繕費 事業計画書

予算科目		担当
款: 02 高速鉄道事業費 節・細節: 39 その他修繕費	項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	所属: 車両課(技術) 担当者: 山田

(単位:千円)

【事業内容】	5年度予算額
7 車両管理システムウイルス対策ソフト更新業務委託事業	
(1 事業目的・内容) 川和車両基地に設置している車両管理システムは、車両の運用、検修設備、資材、図面等の管理を行っており、クライアントサーバシステムにより11台の端末とサーバで構成されています。 情報セキュリティを確保するため、システム全体のウイルス対策用ソフトウェアの定期的な更新を行います。	
(2 前年度から変更・見直した点) 令和元年から令和4年まで車両管理システムの更新業務委託により、システムの更新とウイルス対策を実施していました。 令和5年度からは、令和元年度以前と同様に個別の契約で実施します。	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等) 横浜市交通局情報セキュリティ管理規程 横浜市交通局情報セキュリティ管理要綱	

令和5年度 修繕費 事業計画書

予算科目			担当	
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 上永谷保守管理所	
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 野口	

(単位: 千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減(A-B)
予算額	102	200	△ 98

<input type="radio"/>	ブルーライン
<input type="radio"/>	グリーンライン
<input type="radio"/>	共通

(単位: 千円)

【事業内容】	5年度予算額
1 上永谷検車区庁用車 車検・法定点検	96
(1 事業目的・内容)	
<p>応急車及び庁用車の法令に基づく車両検査を行うものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国土交通省令に基づく点検 車検及び法定点検 1台(応急車1台) 	
(2 前年度から変更・見直した点)	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)	

(単位: 千円)

【事業内容】	5年度予算額
2 上永谷検車区庁用車 修理費	6
(1 事業目的・内容)	
<p>庁用車を修理する費用。</p>	
(2 前年度から変更・見直した点)	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)	

令和5年度 修繕費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費 節・細節: 39 その他修繕費	所属: 新羽保守管理所 担当者: 高橋

(単位: 千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減(A-B)
予 算 額	210	240	△ 30

○	ブルーライン
	グリーンライン
	共通

(単位: 千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額												
1 自動車点検整備 検車区	160												
(1 事業目的・内容)													
<p>応急車の法令に基づく車両検査を行うものです。 国土交通省令に基づく点検</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>車 名</th> <th>車検周期</th> <th>6ヶ月点検</th> <th>12ヶ月点検</th> <th>車検</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キャンター</td> <td>800つ579</td> <td>1年</td> <td></td> <td></td> <td>160</td> </tr> </tbody> </table>		車 名	車検周期	6ヶ月点検	12ヶ月点検	車検	計	キャンター	800つ579	1年			160
車 名	車検周期	6ヶ月点検	12ヶ月点検	車検	計								
キャンター	800つ579	1年			160								
(2 前年度から変更・見直した点)													
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)													
<p>応急車点検整備＝道路運送車両法(第62条)に基づく継続検査</p>													

(単位: 千円)

【 事 業 内 容 】	5年度予算額						
2 自動車修理 検車区	50						
(1 事業目的・内容)							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>自動車修理</th> <th></th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自動車修理</td> <td>随時</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>		自動車修理		計	自動車修理	随時	50
自動車修理		計					
自動車修理	随時	50					
(2 前年度から変更・見直した点)							
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)							

令和5年度 修繕費 事業計画書

予算科目			担当
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	目: 30 車両保存費	所属: 川和保守管理所
節・細節: 39 その他修繕費			担当者: 長谷川 高野

(単位: 千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減(A-B)
予算額	182	290	△ 108

	ブルーライン
○	グリーンライン
	共通

(単位: 千円)

【事業内容】	5年度予算額
1 自動車点検整備・修理	182
(1 事業目的・内容)	
<p>庁用車について、法令に基づく車両検査や法定点検の実施及び故障修理に必要な費用</p> <p>保有庁用車 デュトロ(800せ5623)</p>	
(2 前年度から変更・見直した点)	
なし	
(3 根拠法令・規程、現場の意見等)	

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用	所属：総務課
目：30 車両保存費	担当者名：橋本

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B
予算額	80	80	0

○	ブルーライン
	グリーンライン
	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
49 備用品費	80	再生紙の購入
合 計	80	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用	所属：総務課
目：30 車両保存費	担当者名：橋本

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B
予算額	50	50	0

	ブルーライン
○	グリーンライン
	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
49 備用品費	50	再生紙の購入
合 計	50	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用	所属：人事課
目：30 車両保存費	担当者名：小泉

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B
予算額	1,662	2,050	△ 388

<input type="checkbox"/>	ブルーライン
<input type="checkbox"/>	グリーンライン
<input checked="" type="checkbox"/>	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
50 被服費	1,662	新規採用者、異動・転入者、定期貸与対象者への制服の貸与
合 計	1,662	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目		担当
款：02 高速鉄道事業費	項：01 営業費用	所属：人事課
目：30 車両保存費		担当者名：小泉

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B	<input type="checkbox"/> ブルーライン
予算額	310	310	0	<input type="checkbox"/> グリーンライン
				<input type="checkbox"/> 共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積算額	積算項目
63 委託料	310	空気環境測定(上永谷検車区・上永谷修繕工場)、身体機能検査(上永谷検車区・新羽検車区)
合 計	310	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目		担 当	
款：02 高速鉄道事業費	項：01 営業費用	所属：人事課	
目：30 車両保存費		担当者名：小泉	

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B		ブルーライン
予算額	343	399	△ 56		○ グリーンライン
					共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積算額	積算項目
49 備用品費	200	業務員関係物品
63 委託料	143	空気環境測定(川和検修区)、身体機能検査(川和検修区)
合 計	343	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予算科目	担当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用	所属：安全教育センター
目：30 車両保存費	担当者名：岩澤

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B
予算額	931	692	239

<input type="checkbox"/>	ブルーライン
<input type="checkbox"/>	グリーンライン
<input type="checkbox"/>	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積算額	積算項目
49 備用品費	825	図書購入、教材購入、消耗品購入、備品購入等
64 手数料	26	鉄道総研講習会
65 賃借料	80	自主管理作業責任者講習会場使用料
	931	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用	所 属： 車両課(技術)
目：30 車両保存費	担 当 者 名： 小森

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B
予算額		293,214	

○	ブルーライン
	グリーンライン
	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
41 資産減耗費		3000A形車両廃車費用
49 備用品費	181	防菌防藻剤、空調用添加剤、除菌クロス(詰替え用)
51 光熱水費	2,149	水道・ガス料金
56 旅費	336	市内・市外出張旅費
57 通信運搬費	84	電話回線使用料
63 委託料	125,341	車両清掃、建物清掃、産業廃棄物処理委託業務等
64 手数料	94	クレーン性能検査、危険物取扱者準備講習/資格試験
65 賃借料	242	複写サービス
合 計		

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用	所属: 車両課(技術)
目: 30 車両保存費	担当者名: 山田

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B
予算額		42,394	

	ブルーライン
○	グリーンライン
	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
49 備用品費		光触媒スプレー
63 委託料	50,021	車両清掃、産廃、リニア検査周期延伸、デジタルサイネージ運用管理ほか
合 計		

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目		担当
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	所属: 電気課
目: 30 車両保存費		担当者名: 関口・成嶋

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B
予算額		93,081	

<input type="radio"/>	ブルーライン
<input type="radio"/>	グリーンライン
<input type="radio"/>	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
44 電力料		電気料金(基地内動力用)
合 計		

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目		担当
款: 02 高速鉄道事業費	項: 01 営業費用	所属: 電気課
目: 30 車両保存費		担当者名: 関口・成嶋

(単位: 千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B	
予算額		11,634		<input type="checkbox"/> ブルライン
				<input checked="" type="checkbox"/> グリーンライン
				<input type="checkbox"/> 共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積算額	積算項目
44 電力料		電気料金(基地内動力用)
合 計		

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款: 02 高速鉄道事業費 項: 01 営業費用 目: 30 車両保存費	所属: 上永谷保守管理所 担当者名: 野口

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B
予算額	16,491	14,154	2,337

○	ブルーライン
	グリーンライン
	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
42 油脂系屑費	697	検査用油脂類、ウエス
45 自動車燃料費		緊急自動車用ガソリン
49 備用品費	2,311	共通・小額物品、テキスト代、作業用雑貨・新採用備品、雪害対策用備品等
51 光熱水費	9,391	ガス料金、上・下水道料金
56 旅費	362	定例出張旅費、各種技能・資格講習旅費
57 通信運搬費	153	電話料金、切手代
63 委託料	2,360	事務所清掃費、産業廃棄物処分費
64 手数料	206	各種技能・資格講習費、印紙代
65 賃借料	686	寝具賃借料、複写サービス
68 保険料		緊急自動車任意保険料、自賠責保険料
73 自動車重量税	32	緊急自動車自動車重量税
96 雑費	12	有料駐車場代
合 計	16,491	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費	所属：新羽保守管理所 担当者名：高橋

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B
予算額	9,474	9,442	32

○	ブルーライン
	グリーンライン
	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
42 油脂系屑費	117	オイル・グリス類、タオルウエス、軽油、灯油
45 自動車燃料費		庁用車用軽油
49 備用品費	2,181	小額物品、事務及び作業用備品、消耗品、工具類
51 光熱水費	2,989	ガス・上下水道使用料金
56 旅費	120	市外・市内出張、各種講習・研修、立会検査等出張旅費
57 通信運搬費	63	電話料金、切手代
63 委託料	3,300	建物清掃、産業廃棄物処理委託
64 手数料	111	各種講習・研修受講料、庁用車車検印紙代
65 賃借料		複写サービス
68 保険料		庁用車自賠責・任意保険料
73 自動車重量税	13	庁用車重量税
96 雑費	5	有料駐車場利用料
合 計	9,474	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)

令和5年度 経費 事業計画書

予 算 科 目	担 当
款：02 高速鉄道事業費 項：01 営業費用 目：30 車両保存費	所属：川和保守管理所 担当者名：長谷川・高野

(単位:千円)

	5年度 A	4年度 B	増△減 A - B
予算額	11,956	11,204	752

	ブルーライン
○	グリーンライン
	共通

【積算内容】

(1 科目別積算内容)

節別科目名	積 算 額	積 算 項 目
42 油脂系屑費	664	潤滑油、軽油、ウエス
45 自動車燃料費		庁用車(1台)の燃料
49 備用品費	1,180	小額物品、共通物品等
51 光熱水費	4,490	水道代、白灯油
56 旅費	474	出張旅費
57 通信運搬費	156	電話料金、切手代等
63 委託料	4,050	建物清掃委託、産廃収集運搬及び処理等
64 手数料	122	各種講習会受講料及び各種免状交付料
65 賃借料	544	寝具及び複写機賃借料
68 保険料		庁用車自賠責保険料及び任意保険料
73 自動車重量税	32	庁用車自動車重量税
96 雑費	6	有料駐車場代
合 計	11,956	

(2 編成するにあたっての考え方)

(3 新規項目・主要事業等)